

琉球大学学術リポジトリ

[会員の広場] 「南資研に期待する」

メタデータ	言語: 出版者: 南方資源利用技術研究会 公開日: 2014-10-26 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 瀬底, 正康 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/0002017258

会員の広場

「南資研に期待する」

瀬底正康
(琉球セメント㈱)

私は、先般イスラエルを訪問する機会があった。それはアグリテック農業技術見本市を見学するのが主な目的であった。5泊6日と短い期間ではあったがイスラエル農業を垣間見る事が出来た。「モーゼは石油を探しに流浪の旅に出たがついに発見することは出来なかった」という笑い話にもあるように、そこは中近東では珍しく油田がない国で、資源の乏しい砂漠の国である。しかしながら、イスラエル人は英知を結集し、自然に働きかけ、砂漠を緑に変えることに成功し、今日では農産物の輸出国と知られている。彼の国での数々の進んだ農業技術を見るかぎりにおいて、技術は勿論それらを開発した生産者と研究者の協力体制には注目するに値し、イスラエル農業の発展の基礎は産官学の協力体制にあることを痛感した。

近年、沖縄県内でも産官学共同体による地域産業の活性化を図ろうとする機運が見られるようになった。その中でも、南方資源利用技術研究会(南資研)は「熱帯・亜熱帯地域における資源を有効に利用する技術の発達を図ることを目的とする」と活動内容を明言し、会員も産官学総て網羅しており、産官学交流の為の絶好の場となっている。最近の南資研の研究発表をみると、民間企業独自の発表もあるが、それと

大学、または試験研究機関との共同による発表が盛んに行われている。研究発表の機会に恵まれない県内企業、技術者にとって本会研究発表会は研究発表の場となり、発表者自身、発表した企業は基より私自身の活動の原動力となっていることを確信している。また、産官学による共同研究は、人材の育成と地場産業の技術力の向上に大きく寄与していると言えよう。

当社は昨年琉球大学農学部安田研究室に若手技術者を研究生として派遣し「紅麴の色素」についての基礎研究を行って来た(本研究会第6回研究発表会にて発表)。そこでは、質の高い情報と技術など随時に得る事ができ、その結果、当社のみでは到底達成出来ない研究成果を上げることが出来た。今回の経験で大学を含めた公的試験研究機関は民間企業にとって最も身近で頼れるアドバイザーであることを実感するとともに、その窓口としての南資研の存在とその役割は極めて大きいと痛感した。それゆえ今後とも沖縄地域の技術発展に果たす南資研の益々の発展が期待されている。

今後、南資研が益々発展するとともに会員皆様の御奮闘により現在研究されているテーマひとつひとつが社会に貢献される事を祈念致しております。